

令和7年度 技術情報第3号
果樹（かんきつ、なし、かき、キウイフルーツなど）、茶
チュウゴクアミガサハゴロモ

令和7年7月29日
静岡県病虫害防除所長

県内の果樹園及び茶園で、チュウゴクアミガサハゴロモの発生が確認されています。これまでに本種による農作物への被害の報告はありませんが、今後の発生に注意願います。

1 発生経過及び状況

- (1) 令和6年6月に、県中部の温州みかんで、前翅が鉄さび色で三角様のハゴロモ類と思われる成虫の診断依頼があった。静岡県病虫害防除所で確認したところ、アミガサハゴロモの一種と考えられたが、本種による農作物への被害は確認されていなかったことから、診断依頼者には経過観察を依頼した。
- (2) 令和7年6月には、県中部のキウイフルーツで、成虫（図1）及び幼虫（図2、図3）の発生が確認された。同じ時期に県東部の茶園で、新梢に幼虫（図4）の発生が確認された。改めて病虫害防除所で確認し、チュウゴクアミガサハゴロモと診断した。しかし同年7月時点で、いずれも本種による農作物への被害は確認されていない。
- (3) そのほか、県中部を中心に、本種の発生報告が複数寄せられている。

2 国内での発生状況

本種は中国原産で、国内では、平成27年に大阪府で初確認されている。令和7年7月時点では、関東以西の1都9県で発生が確認されている。

3 被害

他県では、成虫と幼虫が枝に寄生し、発生が著しい場合はすす病を発症する報告がある。また成虫は、直径10mm以下の枝に傷をつけて産卵するため、枝の伸長抑制や枯死などの被害を生じる恐れがある。

4 特徴

(1) 形態

成虫は翅端までの体長が14～16mmで、前翅は茶褐色～鉄さび色を有している。前翅長は約14mmで、前翅前縁中央部には三角形の白斑が生じる（図1）。

幼虫は白色で、腹部から白い糸状のろう物質の毛束を広げる（図2～4）。

(2) 寄主植物

本種は、ツツジ科、ツバキ科、バラ科、ミカン科、及びモッコク科など、様々な

植物を寄主として利用することが知られている。国内の農作物では、いちじく、おうとう、オリーブ、かき、かんきつ、すもも、なし、ぶどう、ブルーベリー、もも、りんご、茶、及び、宿根アスターなどで報告がある。但し、生態については不明な点が多い。

5 その他

これまで本県では、本種の寄生による農作物への被害の報告がないものの、他県ではすす病を発症するなど被害の報告があることから、今後の発生に注意する。

本種による被害が疑われる場合には、病害虫防除所、果樹研究センター、茶業研究センター、あるいは最寄りの農林事務所へ相談する。



図1 チュウゴクアミガサハゴロモ
成虫（キウイフルーツ）
（赤矢印：三角形の白斑）



図2 チュウゴクアミガサハゴロモ
幼虫（キウイフルーツ）



図3 キウイフルーツの枝に寄生
した幼虫



図4 チュウゴクアミガサハゴロモ
幼虫（茶）

【問合せ先】 静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>

